

令和元年7月17日

釜石市議会議長 佐々木義昭様

釜石市議会 海盛会

代表者 古川愛明



会派視察調査報告書

当会派所属議員 古川愛明 海老原正人 合田良雄

視察研修を令和元年7月2日、7月3日、7月4日 室蘭市、登別市で下記の通り実施しましたので、報告致します。尚、赤崎光男議員は体調不良の為、欠席でした。

1.視察項目：夜景観光、企業誘致、フェリー船路誘致について（室蘭市）

日時 令和元年7月3日（水）午前10：00～12：00

参加者 古川愛明、海老原正人、合田良雄、

相手方 市議会事務局長 佐賀孝志

港湾部港湾政策課長 亀井康一

〃 主幹 田村仁

経済部産業振興課長 伊藤鋭二

〃 主任 岩倉雅人

〃 観光課主幹 佐藤雅人

場所 議会会議室

研修内容

●視察先に選んだ理由

室蘭市と当市では人口こそ大きな違いがあるものの同じような企業城下町として発展してきた経緯があります。ピーク時には室蘭市昭和40年代前半に162,000人、釜石市も昭和40年代前半には92,000人でしたが、現在、室蘭市は83,000人、釜石市は33,000人とお互いに人口減が顕著です。その室蘭市ですが、今、夜景観光、又、企業誘致とあるいは、フェリー航路誘致と市をあげての産業育成への取組みと地方創生への踏ん張りを学びたく選ばせていただきました。



視察報告書

(室蘭市及び登別市)

令和元年7月17日

釜石市議会 海盛会

視察経過

●夜景観光については、昭和初期からの歴史があり、昭和36年には「夜景鑑賞会」が実施され、室蘭夜景まつりと銘打って開催予定だったようです。昭和63年に測量山をライトアップ開始、平成20年市民夜景見学会開始、室蘭夜景の魅力、バリエーションの多さ、身近な夜景、ものづくりのまちならでの風景、夜景見学バス、クーポンブックの発行等、日本八大工場夜景エリアネットワーク、平成29年度より全国工場夜景都市協議会設立、川崎市、室蘭市、四日市市、北九州市、周南市、尼崎市、富士市、千葉市、高石市、堺市、市原市の11エリア。課題と取組みながら、新たな魅力を見つめ探しながら継続しています。

●企業誘致取組みについては、ものづくりの町としては鉄鋼を軸とした基盤技術の築積、支援制度、地域未来投資促進法に基づき「室蘭市地域基本計画」策定。

この計画は設備投資重点支援、固定資産税の減免措置、認証取得製造プロセス改善等、工業立地法に基づく環境施設面積率の緩和等の支援制度地方創生関係施策の構築。又、室蘭市産業振興条例を改正し、航空機関連事業のための助成措置を講じる新設の場合、従前の課税免除に加え、増設の場合、従前の施設設置助成に加え、新たに課税免除も行います。施設設置助成額の算出方法を見直して固定資産評価額ベースに拡大し、原則単年度で助成します。

上記のような支援制度を確立し、航空機産業参入支援を促します。それによりものづくり企業の連携により航空機産業に参入、オール室蘭による一貫生産体制の構築を進めます。

中小企業振興を図る支援機関公益財団法人室蘭テクノセンター、異業種交流会、経済産業省と室蘭市とのつながりも強いものがあるようです。さらには、学術、行政、金融、室蘭との連携によるものづくり企業活性チームの活躍によって中小企業の課題解決と事業拡大支援、企業城下町意識の払拭と革新に向けた次世代人材の育成等々の方策により企業誘致、企業育成が行われています。

●フェリー航路誘致については室蘭市、宮古市、両市において諸条件が一致し、航路開設となったものです。その諸条件とは、三陸沿岸道路の早期開通により宮古港から仙台、首都圏へのアクセスが大幅に向上、トラックドライバーの連続休憩時間対応が可能に又、両港ともにトラック事業者等の利用も大きな期待を寄せており、継続的な協力と利用が期待できる観光需要の中には世界文化遺産の釜石橋野鉄鋼山の観光資源もありました。

●視察研修の予定にはありませんでしたが、撮り FES19 という24時間滞在型フォトコンテストのことでありまして、室蘭市の全ての場所、地域等を被写体とするフェスティバルです。参加者300人前後で年々増加傾向にあります。NHKによる全国放送等、室蘭市長を始め、市の職員や観光協会のスタッフの名刺に写

真を使用、室蘭市の広報活動に一役買っております。また、受賞作者を使った観光ポスターを製作した観光誘致が交流人口へ多大な貢献をしている。

所感

視察先に室蘭市を選んだ時に釜石市と同じような企業城下町と発展して来た自治体なので何か真新しい施策があるのかと思いましたが、地方創生を軸とする国の施策を取り入れしっかりと未来へ向っている施策がありました。地域未来投資促進法に基づき室蘭地域基本計画の策定による航空機産業の参入、ものづくり企業の連携又、観光事業における24時間滞在型フォトコンテスト、これは入賞作品での観光ポスター作成職員等への名刺への作品の利用等釜石市におかれましてもラグビーワールドカップ、橋野鉄鋼山等での写真コンテストを実施し、議会だより、市広報等への作品の利用又、コンテスト参加者の写真を全世界に発信することで復興の感謝の気持ちともなるのではないかと考えます。

2.視察項目：インバウンド戦略について（登別市）

日時 令和元年7月4日（木）午前9：30～11：30
参加者 古川愛明 海老原正人 合田良雄
相手方 市議会議長 工藤俱二雄
市議会総務主幹 高橋努
観光経済部観光振興グループ 松本勝典
〃 総務主幹 古村健
〃 主査 田中健太郎
場所 登別市会議室

研修内容

①視察に選んだ理由

当市で開催されますラグビーワールドカップに多くインバウンドが訪れると予想されております。様々な取組みはなされておりますが、インバウンドに対して先進地であります登別市において研修をし、インバウンド対策になればと選びました。

登別市の及びインバウンド施策の概要

登別市は北海道の南西部に位置し、人口47,900人で年間約400万人の観光客が訪れる全国有数の観光地、登別温泉は「いい湯だな、ここは北国登別の湯」と紹介されるように自然湧出量、1日1万トンと言われる豊富な湯量、ひとつの温泉地で9種類の泉質湧出していることから「温泉のデパート」と呼ばれている。インバウンドに関する事業では、訪日外国人観光受入戦略拠点整備事業、外国人旅行者の移動容易化ため言語バリアフリー化調査、訪日外国人旅行者の受入環境整備に係る外客受入戦略拠点整備事業、ムスリム旅行者向けの受入れ環境整備に関する訪日外国人旅行者の受入環境整備に係る外客受入拠点整備事業、又、これまでに実施された訪日外国人受入環境整備事業は、

平成27年度 ①手ぶら観光実証事業（ヤマト運輸連携）

②JR登別駅ポーターサービス事業

平成28年度 ①手ぶら観光実証事業（ヤマト運輸連携）

②JR登別駅ポーターサービス事業

平成29年度 ①Wechat pay導入実証実験事業

②JR登別駅ポーターサービス事業

平成 30 年度 ① J R 登別駅ポーターサービス事業

※

○手ぶら観光実証事業とは

・例えば札幌から登別に来る時に手持ちのトランクを札幌から登別までヤマト運輸が配送し、お客様は手ぶらで旅行するというものです。

○J R 登別駅ポーターサービス事業とは

・登別駅はエレベーター等がなくてバリアフリーになっておらず、階段をトランク等荷物を持ったまま上り下りしなくてはならず、その荷物やトランクを運んでやるサービスの事です。

等々の釜石市にとっては特異な事業が行われているようであります。

視察経過

登別市議会会議室において市議会議長より歓迎の挨拶を受け、観光経済部観光振興グループ主査田中から観光インバウンドについて説明をしていただき補足に総括主幹古村さんより説明を受けました。

所感

登別駅からホテルまでもタクシー、翌日ホテルから登別市役所までもタクシーで、そのタクシーの運転手さんが同じ人だったのですが、それがまた観光地ならではの運転手さんで客を退屈させない見事な接客でした。年間 400 万人もの観光客が入れ込む、全国有数の観光客への不便をかけない十分に満足していただける施策を講じています。年間 400 万人の入れ込み観光客の内、約 50 万人がインバウンドということで、インバウンドに対する観光誘致の取組みは、多言語パンフレットの作成（英語、中国語、韓国語、タイ語、更には観光案内図多言語版、海外プロモーション（台湾プロモーション、マレーシアプロモーション、タイプロモーション）等北海道庁が企画するイベントへ参画し、PR の実施と年中通して PR 活動がなされている観光地で全国有数温泉地とは規模においても全て何もかも違うようですが、今回のラクビーワールドカップの後の市内の観光行政に参考すべきと考えます。